



【305】

“自社開発”に強み



インテリジェント ウェイブ (IW) は、1984年に設立した。クレジットカード決済のシステム開発を中心に事業展開し、2019年には東証1部に上場している。証券業関連や情報セキュリティ関連事業など金融機関での採用も多い。20年9月に代表取締役社長に就任した佐藤邦光氏(61)に、特徴や今後の展開などを聞いた。

インテリジェント ウェイブ

代表取締役社長 佐藤 邦光氏

— 会社の特徴は。

「ベンチャースピリッツがあり、創業者の安達一彦氏は『常に挑戦を』と掲げている。自社製品開発にチャレンジした結果、今がある。経営理念は『次代の情報化社会の安全性と利便性を創出すること。一人一人の個性を尊重しながら、働きやすい環境を整備している。自社開発の製品では、圧倒的シェアがあり、他社が追従できない領域で成長している』

— 主な製品は。

「ネットワーク接続やカード利用可否判定をする『NETT+』(ネットプラスワン)や、不正利用検知シス

テム『ACEPlus』(エースプラス)、内部情報漏えい対策ソフトウエア『CWAT』(シーワット)などがある。CWATは、金融機関も含めて800社に販売している」

— 新規事業は。

「自社開発では、放送事業者向けIPフロームモニタリングソリューション『EOM』や、自然言語処理により検索精度を高めた文書検索システム『OpAI』などを展開。自然言語の意味を理解するAI

エンジンを活用した業務知識活用プラットフォームを開発し、大日本印刷と一緒に金融機関へ提案をしている」

— 今後の展開は。

「成長の柱はクラウドサービスだ。共同利用で初期導入費を軽減できる。次に注力するのは銀行業界。アクワイアリング(加盟店管理)サービス『IOASIS』は、千葉銀行が採用しており、決済分野に貢献している。銀行業界が期待されている新しい役割の一つに地域のIT基盤作りがある。弊社も地域創生に貢献していきたい」(聞き手＝安藤 克朗)

さとう・くにみつ 愛知県出身、61歳。83年3月関大工卒、大日本印刷入社、18年情報インベーション事業部C&Iセンター長、19年IW取締役就任、20年9月から現職。